

大学院 教育評価アンケート結果

2022年度 修士課程【国際保健助産学専攻】

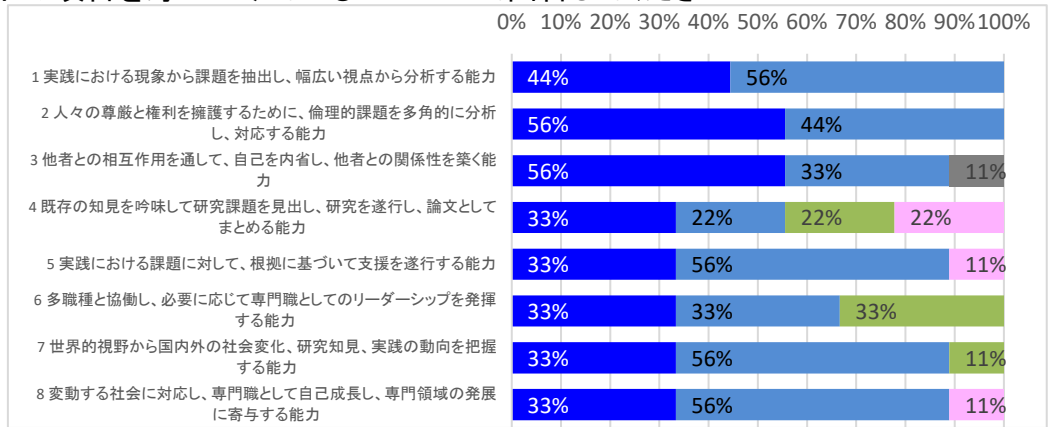
2022年度の修士課程(国際保健助産学専攻)の在学生(1~2年生)を対象とした教育評価アンケートは、前年度に引き続きWeb調査で行いました。以下、在学生の調査結果についてご報告いたします。

■ 強くそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない ■ そうは思わない ■ 全くそうは思わない ■ 無回答

I. 現時点であなたが以下の項目を身につけているかについて回答してください

n=9

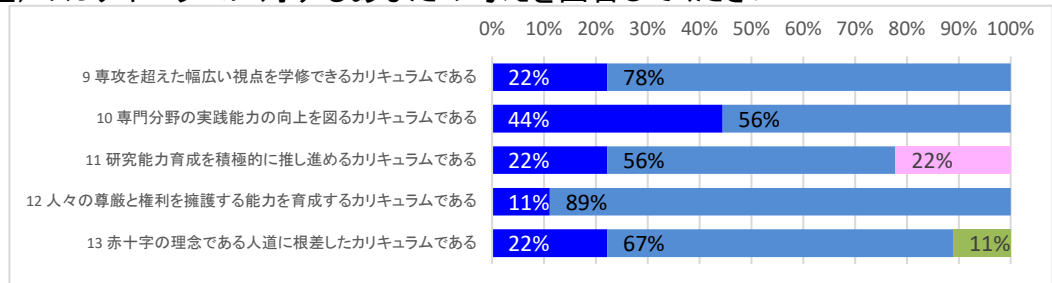
8つの項目は全て、本学ディプロマポリシーに定める能力に対応しています。現時点で身につけている能力として、在学生の7割以上が「強くそう思う」「そう思う」と回答した項目は、8項目のうち6項目でした。



II. 本学大学院(修士課程)のカリキュラムに対するあなたの考えを回答してください

修士課程(国際保健助産学専攻)のカリキュラムの受け止めについて、すべての項目において、7割以上の在学生が「強くそう思う」「そう思う」と肯定的に評価しました。

専門分野の実践能力を向上させ、専攻を超えた幅広い視点を学修できるカリキュラムであると評価されています。



III. 大学院における以下の内容に関する満足度を回答してください

本学大学院への満足度として、修士課程(国際保健助産学専攻)の在学生の7割以上が「強くそう思う」「そう思う」と肯定的に評価した項目は、28項目のうち13項目でした。

授業関連として、主体的に学べる授業や新しい発見・視野を広げる授業が多いこと、実習及び論文指導体制の充実などが高く評価されています。

教員に関することとして、学問分野の専門家として優れた教員や、学生を尊重する教員が多いことが評価されています。併せて、教員による個別指導の充実も高く評価されています。

その他、図書館の情報検索データベースの充実、キャンパスの利便性が高く評価されています。

